



果樹課
栗谷 全

融雪剤

を効果的に使って 春作業に備えましょう

▶樹上への冠雪の様子



▶沈降被害や枝折れを防ぐために樹木まわりを除雪



■園地を見回り雪害を防ぎましょう

雪による果樹への被害は、樹上への冠雪だけでなく積もった雪が沈む「沈降」による被害も大きく、出来るだけ小まめに園地を見回り、樹上の雪下ろしや雪に埋もれた枝の掘り上げ作業を行いましょう。

ぶどう棚などの施設は、棚上の雪払いや周辺の除排雪を行い、施設の倒壊を防ぎましょう。

また、これまでの雪害で補修した部分は雪に対する強度が弱くなっている事もあるため、優先的に見回りましょう。

■融雪剤は晴れ間を見て散布しましょう

融雪剤を有効活用した園地では融雪が非常に早くなっています。融雪剤を散布した箇所はザラメ雪になり、枝や資材に付着しにくくなり雪害を軽減し、消雪を7〜10日早めます。降雪のピークが過ぎ、好天が2日ほど続く日を選んで散布しましょう。

散布する際は、園地全体に薄く均一に散布してください。素材が炭の場合、遠目でうっすら黒く見える量で十分な効果が得られます（写真1）。

散布後に積雪があっても効果は持続しますが、20cm程度積雪が見られたら再度散布しましょう。

融雪剤の使用については、量が少なすぎても多すぎても効果が劣り、多すぎると資材の無駄使いにもなります。効果的に使用し、春作業に備えましょう。

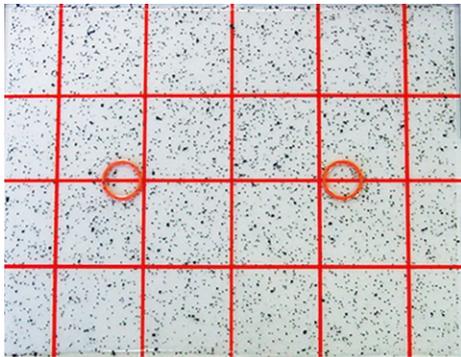


写真1
融雪材の散布状況（格子の間隔は5cm）



▲融雪剤散布の様子

◇お問い合わせ◇

果樹課

☎0182-23-6266